

6

腸内細菌検査

1 概 要

1] 目 的

食中毒発生の未然防止を目的として、赤痢菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌の保菌者検索を行った。

2] 対 象

対象者は、食品取扱者、集団生活者（幼児・施設入所者）、学校給食従事者等

3] 検査方法

(1) PCRスクリーニング検査

検体はキャリーブリア輸送培地に採取し、赤痢菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌由来の遺伝子を3菌種同時にスクリーニングする検査法（マルチプレックスPCR法）で検査を行い、疑陽性となった検体に対して培養法を行った。

(2) 赤痢菌検査

分離培養はSS培地を使用した。

確認培養は、TSI培地・LIM培地・酢酸塩培地・シモンズのクエン酸塩培地・VP培地を使用し、生化学的性状を確認した。

(3) サルモネラ属菌検査

分離培養はSS培地を使用した。

確認培養は、TSI培地・LIM培地・クロモアガーサルモネラ培地・シモンズのクエン酸塩培地・VP培地を使用し、生化学的性状を確認した。

生化学的性状の一致したものはサルモネラ免疫血清を用い、O抗原の同定検査を実施した。

(4) 腸管出血性大腸菌検査

分離培養はVi EHEC培地を使用した。

確認培養は、TSI培地・LIM培地・CLIG培地・クロモアガー O157培地・シモンズのクエン酸塩培地・VP培地を使用した。

生化学的性状の一致したものは、病原大腸菌免疫血清を用いて同定検査を実施した。また、同時にベロ毒素産生能検査を実施した。

2 実施状況

図1 受検者数の年次推移

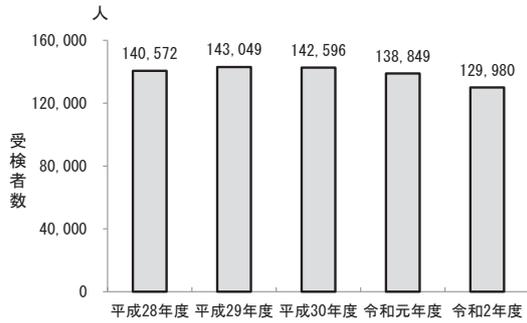


図2 陽性者・陽性率の年次推移
(サルモネラ属菌)

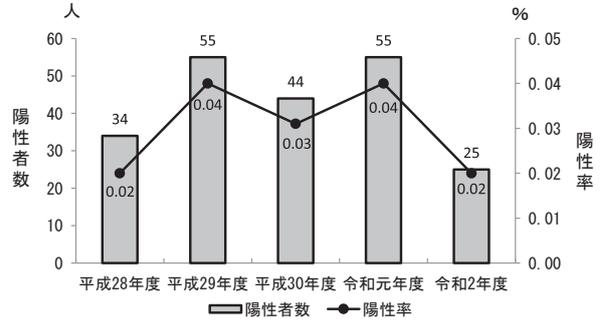


表1 赤痢菌、サルモネラ属菌（チフス菌・パラチフスA菌を含む）検査実施状況

	団体数	受検者数	陽性者数(%)	赤痢菌	サルモネラ属菌群					
					O4	O7	O8	O9	O13	O18
食品取扱者	1,350	82,666	19 (0.02)	0	7	3	5	2	1	1
学校給食従事者	430	47,314	6 (0.01)	0	5	0	1	0	0	0
総数	1,780	129,980	25 (0.02)	0	12	3	6	2	1	1

表2 腸管出血性大腸菌検査実施状況

	団体数	受検者数	陽性者数 (%)
食品取扱者	1,350	82,666	0 (0.00)
学校給食従事者	430	47,314	0 (0.00)
総数	1,780	129,980	0 (0.00)